別記様式第６号（第16条第３項，第25条第３項関係）

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博士（　看護学　）	氏名	ELSHEIKH AHMED AHMED AHMED MAHMOUD
学 位 授 与 の 条 件	学位規則第４条第１・２項該当		

論　文　題　目
EFFECT OF A TAILORED MULTIDIMENSIONAL INTERVENTION ON THE CARE BURDEN AND QUALITY OF LIFE AMONG FAMILY CAREGIVERS OF STROKE SURVIVORS.
（脳卒中患者の家族介護者の介護負担と QOL に対する個別化多次元的介入の効果）

論文審査担当者

主　　査	教授	新福　洋子	印
審査委員	教授	梯　　正之	
審査委員	教授	宮下　美香	

〔論文審査の結果の要旨〕

脳卒中生存者の介護は，家族介護者に大きな負担を強いる。これまで実施されてきた介護負担の軽減に向けた研究は単要素的な介入が中心で，介護者の個別ニーズかつ科学的推奨に基づいた多次元的な介入プログラムは実施されてこなかった。そこで本研究では，脳卒中生存者の家族介護者の介護負担と QoL に対する，個別化多次元的介入の効果を評価することを目的とした。介入には，3 つの科学的根拠に基づくアプローチ，すなわち介護技術力強化（技術構築），心理教育，ピアサポートを組み合わせた。

非盲検，前向き無作為化（1：1）対照試験を，エジプトで実施した。参加者は，発症後 6 か月以内の脳卒中生存者（modified Rankin Scale: 3-5）の，18 歳以上の家族介護者計 110 人である。参加者は，介入群（n = 55）または対照群（n = 55）のいずれかに割り当てられた。介入群は，６か月間の個別化多次元的介入（脳卒中看護を実践している看護師による家庭訪問による指導（３回），同電話指導（６回），ピアサポートセッション（１回）を受けた。介入では，家庭訪問で看護師がニーズアセスメントを行い，それに基づき個別の看護支援計画を立案，多職種チームで計画を吟味したうえで，介護技術教育や心理教育を個々の家族介護者に提供した。対照群は１回のみの教育を受けた。主要評価項目は，Zarit Burden Interview で測定される介護負担感尺度得点の変化で，副次評価項目に QoL 得点（WHO QoL-BREF），介護者の知覚されたニーズ得点（Family Needs Questionnaire-Revised），コーピング戦略得点(Brief-Coping Orientation to Problems Experienced)を設定した。測定ポイントを，開始時（T0），3 か月目（T1），6 か月目（T2）に設定した。2 群間のそれぞれのポイントの比較には，独立した t 検定と Mann- Whitney U 検定を，2 群間の介入期間の変化については Wilcoxon signed-rank 検定，反復測定二元配置分散分析を行った。

結果，T0（baseline）に 2 群間差はなかった。介護負担感及び QoL について，T1 と T2

時点の 2 群間差，各群内の経時的変化に統計的有意差はなかった。一方で，群と時間の相互作用では，QoL（心理領域，p<0.001）と（社会領域，p=0.036）に主効果が観察された。知覚されたニーズ（健康情報，情緒的サポート，専門的サポート）では，時間経過とともに介入群では改善がみられ，T1 と T2 で群間に有意差が観察された（すべて，p<0.05）。対照群では改善は見られなかった。コーピング戦略（受容，p=0.017；肯定的リフレーミング，p=0.023；情緒的サポートの活用，p=0.037；積極的コーピング，p=0.010；および計画，p=0.042）では，T1 で 2 群間に統計的有意差を観察した。

本結果では，実施した情報提供やコーピング教育に対しては効果が示された。その一方で，介護負担感の軽減にはつながらなかった。この点について，脳卒中生存者とその介護者に対する在宅ケアサービスなどの直接的かつ専門的な支援の仕組みがないエジプトでは，構造化されたヘルスケアサービス・制度が欠如していることが，結果に影響を及ぼした可能性が考えられた。また，エジプトの失業率や貧困率の高さなど，家族介護者の社会的決定要因の影響が示唆された。家族介護者は看護師による介護に関する教育やピアサポートよりも，看護師による直接ケアを期待したと考えられる。

エジプトの家族介護者の置かれた環境において，研究者が開発した個別化多次元的介入プログラムは家族介護者の介護負担を軽減することはできなかった。一方で，介入と直接結びつく心理・社会領域の QoL や未充足のニーズ，コーピング戦略については介入群において改善が観察された。

以上の結果から，本論文はエジプトで実施された脳卒中生存者の家族介護者の負担軽減に向けた初めての無作為化比較対照試験であり，今後の在宅看護ケアの発展につながる研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は，本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。